

# Community Design Cafe

コミュニティ・デザイン・カフェ(CDC)

たくさんの方が集い、「コミュニティ」を「デザイン」する  
そんな「カフェ」のようなセンターを目指します

CDC News Vol.023 2006.02

生きがいしごとサポートセンター阪神北

## 社会起業家は「エリート」を目指しましょう

センター長 森 綾子

先日、私の尊敬している太成学院大学の釣島平三郎教授の講演会がありました。

テーマは「アメリカのコミュニティ・ビジネス(CB)に学ぶ」でした。本来CBとはイギリスが発祥の地で、アメリカでは「NPO」や「社会起業家」と呼ばれているそうです。

CBが生まれた背景は、1970年代、イギリスが英国病と呼ばれる状態に陥っていたとき、サッチャー首相は、お金もなく社会のどん底の状態から抜け出すための対策として市民に、公に頼るのではなく、まず自助努力と自己責任を主眼において協力を求めました。その民営化の流れがブレア政権に引き継がれ、その流れの中で地域の課題を解決するための社会起業家が生まれました。当然それらを支える中間支援組織も作られました。このようにあらゆるものの民営化によりCBが生まれ、イギリスは立ち直ったとの事だそうです。

その上で、官と民がパートナーを組み社会起業家精神を官の領域に持ち込み、市場原理に則った経営を進め、情報公開もしたそうです。また市役所の職員も熱心に市民と一緒に協働し、社会起業家をサポートしたそうです。

生きがいしごとサポートセンターの事業がこれをモデルに作られたかどうかは分かりませんが、日本でもイギリスに習い、CBの支援センターが行政により作られていることを思うと、このイギリス方式はマッチしているのでしょう。

アメリカは、もともと公のことも民が主体となったNPOで運営されてきたので、日本とは大きな違いがあります。

特に顕著なのは、エリートに関する考え方で、アメリカは少数のエリートが社会をリードする国であるため仕事もできるが人格が高潔。教養も深く謙虚でありながら、リーダーシップがある。

そして緊急時には自分たちが先頭に立って義務や犠牲を果たす覚悟が身についている。

また、社会に果たすべき使命であるミッション、人生や事業を通じて実現したいビジョンをはっきり持っており、しかも秘めた情熱も持っている人のことだそうです。(参考資料：釣島平三郎「アメリカ最強のエリート教育」講談社)

これをみても、高い学歴や勉強さえできればいいという日本のエリートとは随分違ってきます。

そしてアメリカでは「社会起業家」もエリートだそうで、日本でも同じような理解が浸透していくといいなと思いました。

弱者やなかなか声を出せない人のために社会起業家を目指し、地域課題解決や地域活性化を考えながら、コミュニティ・ビジネスを起業していく彼らの苦難の道を思うと、もっともっと評価されていいのではないのでしょうか。

そしてより多くの市民にこんな生き方をしている人がいることを知り、支援してほしいと心より願わずにはおられません。

そして社会起業家自身も、アメリカのエリートのように志と品位を高く信念をまげず、大きな視野をもった人格をめざして仕事をしていきましょう。

活動報告(4月～1月)

17年度はこんなことができました



今年度で生きがいごとサポートセンター事業も4年目を迎えました。

17年度の始まりにあたっての抱負は、「3年間の実績を活かし、社会の変化にあった事業を展開する」でした。

そこで目標として、

個別相談(チーム制)の充実

就労相談(キャリアカウンセリングを含む)の充実

新規起業・法人設立の支援

起業後 間もない団体の運営面のフォローアップの拡充  
時代を先取りするネットワークの提案と構築

をあげ、この1年活動をしてきました。

その結果(途中経過です)が下記の内容です。

| 内容         | 14年度 | 15年度  | 16年度  | 18年1月まで | 前年同月比 |
|------------|------|-------|-------|---------|-------|
| 来場者数       | 2649 | 2530  | 2064  | 2119    | 123%  |
| HPアクセス件数   | 4980 | 11451 | 11334 | 22725   | 241%  |
| 面接者数       | 758  | 1522  | 2009  | 3323    | 198%  |
| 電話/FAX相談数  | 1429 | 2373  | 3254  | 3709    | 137%  |
| e-mail相談者数 | 717  | 1469  | 1598  | 3298    | 248%  |
| 起業希望者数     | 147  | 213   | 254   | 374     | 177%  |
| 求職者数       | 219  | 175   | 114   | 95      | 100%  |
| 新規求人数      | 189  | 176   | 141   | 328     | 279%  |
| 就職成立者数     | 54   | 20    | 24    | 27      | 135%  |
| 起業団体数      | 7    | 27    | 40    | 31      | 93%   |
| 従事者数       | 91   | 275   | 363   | 221     | 73%   |
| うち自ら起業した者  | 調査なし | 155   | 256   | 179     | 84%   |
| 講座等参加者数    | 673  | 516   | 1020  | 2390    | 281%  |

相談業務(起業・法人化・運営支援)

特に注目したいのは、ITの普及を受けてHPアクセス数やe-mailでの相談が急増していると共に、面接者数が2倍近くに増えている点です。

これは今年度、目標を意識して取り組んだ結果とともに、4年目の特徴として既存団体の運営面での相談がとても増えてきているということです。

それもかなり個々の団体がもつ特殊な事情を含んだものが多く、1件あたりの相談時間も増加し、専門家集団とのより一層の連携強化が必要な段階になってきたというのが実感です。

当センターでは4年間で105件の起業支援をしてきた訳ですので、次年度に向けては新規立ち上げ団体プラス継続団体へのサポートが必要となり、需要はどんどん増えています。

こういった継続支援はなかなか成果の数字としてカウントしにくい部分ですが、これがないとせっかく生まれたものの、栄養不足で育ちきれない状態にもなりかねません。

いよいよ起業支援は次の段階に入ってきていて、今後しばらくの間「立ち上げ後2～3年の団体の支援ができるかどうか」が重要なポイントとなってくると思われます。

職業紹介(就業・情報提供支援)

この事業を4年間継続してきた事で、求人は増加し、就業希望者は安定してきました。

そのこと自体は良い傾向なのですが、新たな流れで少し気になるのは、現在就業中の方で転職希望の理由として、「社内で頻りに異動があり将来に不安を感じる」とか、「今の仕事がきつく、かといって転職となると自分に他の社会に通用する能力があるかどうか不安で身動きできずにいる」といった、ハローワークなどではなかなか相談しづらい厳しい事情を抱えている方も来所されるようになりました。

これは、生きサボ事業が社会全体の流れを強く反映しているといえます。

講習会/CBゼミナール/交流会

講座内容は、啓蒙的な段階から定着期へ移ってきていることを受けて、基礎・実務講習会と共に、今年度はこれまでのネットワークを生かして、体験者の事例紹介講座や、起業に関心がある方や設立間もない、あるいは既に立ち上げられた方との交流を図る場の設定も盛り込んだ形で実施しました。

意見交換だけでなく、その団体が提供できる事業サービスや公的支援制度の紹介などをし「お互いに日頃感じている疑問を解決できた」との感想も多くよせていただきました。

これからも、一層地域に貢献できる支援を続けていきますのでどうぞよろしく願いいたします。

## 新米事務局のための実務講座

### 「報告書」作成は誰のため？



多くの NPO 法人が事業年度を終える 3 月末がやってきました。NPO 法人は事業年度終了後 3 ヶ月以内に報告書を所轄庁に提出する義務がありますので、事務局はそろそろまとめの段階に忙しくなってくる頃だと思います。

また、法人格や提出の有無にかかわらず（報告書とまで堅苦しいものでなくとも）活動記録としての情報公開は、NPO にとって団体を知ってもらうための大切な手段です。

今年度のしめくりとして、報告書の持つ意味と作り方、そして活用の方法を考えてみましょう。

#### 報告書は誰のために、なぜつくるのか？

さて、みなさんの団体では、報告書は誰が作成していますか。

スタッフ間で、誰のために・なぜ作るのかという目的を、具体的に共有した上で作成しているでしょうか。

良い報告書作成の第一歩は、自分の団体にとっての「目的」と「対象」をはっきりさせる事です。

例えば、助成団体や寄付者に成果と継続の重要性を強調し更なる支援を要請するため、HP・ブログなどにアップし次回の参加者を増やすとか、大きな組織なら当事者である社員への認知徹底のためという目的も考えられます。

また報告書には記録的な意味だけでなく、スタッフ間でその取り組みを振り返り、評価し、課題を洗い出し、次のより良い活動につなげるという大切な役割があることを忘れないでほしいものです。

#### 報告書作成のコツ

いくつかの実例をみれば、読み易い報告書にはあらかじめ決まったフォームがあることに気づかれる事と思います。オリジナリティーのある報告書をつくることはもちろんですが、「伝える」ツールとしての報告書にはいくつかの条件があるようです。

- ・ 読む気にさせる分量（ページ数・文章量）
- ・ 読みやすい工夫（構成・レイアウト）
- ・ はっきりとしたコンセプト（いきいき感）
- ・ ナマの声・第三者の意見など、そこでしか得れない情報（なるほど度）

では、次に具体的に作業を進めるポイントを押さえておきましょう。

#### 事前準備

- ・ おおまかな体裁を決める（版型サイズ・目次・ページ割りとその担当者・配布部数など）
- ・ レイアウトによる写真や図などの枚数
- ・ すでに作りこんでおけるものの収集（表紙・プロフィール・事業企画書などそのまま使用できる物）
- ・ 寄稿文など外部への依頼

#### 当日の記録

- ・ 写真撮影
- ・ 講演などの録音（テープ起こしなどがある場合は文体・文章量・フォントの統一をしておく）
- ・ 参加者数の把握
- ・ 配布資料の保管

#### 事業終了後の編集と振り返り

- ・ 事前準備段階の仮決定事項の最終確認
- ・ 上記で用意した材料・情報の編集
- ・ スタッフ間で目的に添った報告書に仕上がったかどうかの検討
- ・ 次の活動につながる成果と課題の共有

このように報告書は事業の計画段階からスケジュールに組み込んでおくことによって、趣旨もぶれず作業の仕上がりも早くなり、報告したい時期にすぐ公開できることにつながります。

また、今年度当センターでも取り組んだ「ブログ」を使った報告のやり方は、とてもタイムリーで臨場感が伝わり、しかも簡単なのでぜひオススメしたい手法です。

#### 報告書の活用方法

報告書は、せっかく時間をかけて作るのですから、たとえ「提出する義務」という目的で作るものであっても、それをもとにいくつかの異なる対象向けに活用することを念頭において作れば、余分な時間や労力がはぶけます。

極端に言えば、ブログでアップした記事をまとめればそれがそのまま 1 年の事業報告になるということもありえます。

事業報告書をきちんと作成し、公開することにより、あなたの団体の活動に賛同する入会者が増えたり、寄付金や助成金などを獲得するチャンスが得られたり・・・と、活動の活性化のきっかけとして（宝の持ち腐れにせず）ぜひ活用しきってください。

### 講座と相談のお知らせ ( 印の実施場所は生きがいごとサポートセンター阪神北です)

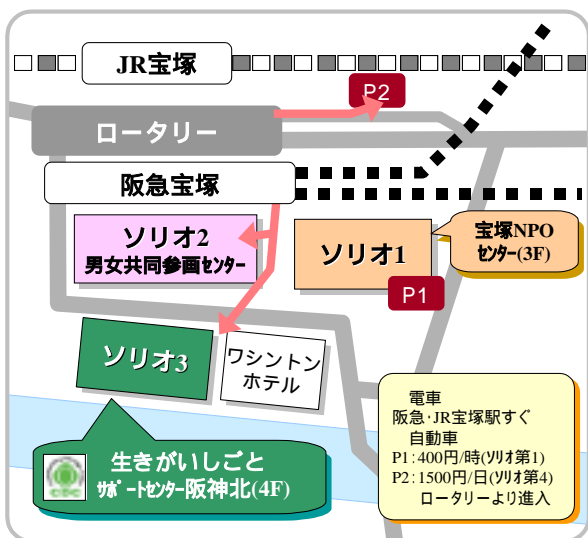
情報発信：「はじめてのブログ講座」  
 3/4(土)/10(金)/16(木) 16:00~17:45 資料代 1000円 (要予約)  
 団体運営：「年度末“忘れずに”にやること講座」  
 3月9日(木)14:00~17:00 資料代 2000円  
 今年度新しく法人設立された団体はぜひ受講されることをおすすめします。

**就業支援：「キャリアカウンセリング」(1回 50分)無料** 事前にご予約ください。

#### ひきつづき、お願い

前年度(2004年4月号)よりお願いしておりましたニュースレターのお届け方法の件ですが、順次、郵送からE-mail送信(PDFファイル版)へ、切替えを開始させて頂いております。  
 これからも、よりタイムリーな情報提供を心がけていきますので、皆様のご協力を何卒よろしくおねがいいたします。なお、過去のニュースレターはホームページからご覧いただけます。  
<http://www.jttk.zaq.ne.jp/ikigai-h/>

**編集後記** 先日「希望のニート・ニートとどう向き合いますか~現場からのメッセージ~」という講演会に参加しました。その中で「自分の子どもがまさかニートになるなんて・・・」とほとんどの親はおっしゃるそうです。それについて講演後、講師の二神能基さんにお聞きしたところ「子どもがニートになるかどうかは偶然と思ったほうがいい」とのこと。まさにニートの問題は特殊な状況でなく、一般化して考えた方が理解しやすい時代にきているのかもしれません。就業についてもゼロか100%かの価値観ではなく、30%も50%も受け入れられる社会ができないとニートの人たちはいつまでも家から出てこれないようです。それと二神さんの逆説的な言い方なのかもしれませんが、「子どもをニートでなくすには、親が貧乏になる事」という言葉に妙に納得させられたのは、私だけ、かな?〔Y〕



**生きがいごとサポートセンター阪神北**  
 ~コミュニティ・デザイン・カフェ(CDC)~  
 〒665-0845 宝塚市栄町 2-2-1 ソリオ 3-4F  
 TEL&FAX 0797-87-4350/4351  
 E-mail ikigai-h@jttk.zaq.ne.jp  
 URL <http://www.jttk.zaq.ne.jp/ikigai-h/>



**(特)宝塚 NPO センター**  
 〒665-0845 宝塚市栄町 2-1-1 ソリオ 1-3F  
 TEL&FAX 0797-85-7766/7799  
 E-mail zukanpo@hnpo.net  
 URL <http://www.hnpo.net/n/zukanpo/>



「生きがいごとサポートセンター阪神北」事業は、財団法人阪神・淡路大震災復興基金を財源とした委託事業として、特定非営利活動法人宝塚 NPO センターが実施しています。同事業は、生きがいごとサポートセンター播磨、生きがいごとサポートセンター神戸西(わす)、生きがいごとサポートセンター神戸東(ワラビー)、生きがいごとサポートセンター阪神南の5拠点にて運営されています。